

論文審査の要旨及び審査委員

(2, 000字程度)

報告番号	甲 第 17 号	氏 名	西尾 敏和		
論文審査 審査委員	氏 名		職 名	氏 名	
	主 査	田中 恒夫	教授	委 員	
	委 員	湯沢 昭	教授		
		王 鋒	教授		
		平川 隆一	准教授		
森田 哲夫		教授			

1. 研究の背景と目的

富岡製糸場と周辺地区の観光まちづくりのために、富岡製糸場を保存・活用する必要があると考える。本研究は、富岡製糸場の歴史的変遷、周辺地区の土地利用の変容、産業遺産的価値と周辺地区の評価、富岡製糸場と周辺地区の観光まちづくりを明らかにし、今後の観光まちづくりの課題と方向性を示す。

2. 研究対象地区と研究の特徴

富岡製糸場の周辺地区は、世界遺産の景観や環境を守る規制区域の一部である。研究対象地区は、周辺地区の内、上町、宮本町、城町の各通りで囲まれた範囲である。本研究では、主として歴史的、社会的、建築学的な観点から産業遺産と富岡製糸場に関する既往研究を整理した。結果、富岡製糸場の歴史的変遷と産業遺産的価値、周辺地区の土地利用の変容、周辺地区の評価、今後の観光まちづくりの課題と方向性を示すことに独自性があると考えられる。

3. 富岡製糸場の歴史的変遷

(1) 建設期の富岡製糸場の歴史的変遷：富岡製糸場の建築資材が文化施設などの建設に寄与する可能性を示した。木骨煉瓦建造物の歴史的な特徴として、横須賀製鉄所と建設に共通して関わった技術者がバスチャンであることを裏付けた。

(2) 操業期の富岡製糸場の歴史的変遷：昭和初期以降の生糸生産量や原料繭購入において、我が国や片倉工業における富岡製糸場の占める割合は、比較的低位を占めていたことが分かった。ところが、戦後比較的少ない工女数で生糸生産量の増大が実現し、国内総生産量に占める割合も増加傾向であった。

(3) 操業停止後の富岡製糸場の歴史的変遷：地域の取り組みとして、とみおか観光まちづくり推進協議会、富岡商工会議所、企業・団体の結びつきが判った。協議会、富岡商工会議所、企業や団体がそれぞれ活動を進めている可能性も見出した。

4. 周辺地区の土地利用の変容

富岡製糸場の操業停止後、街並みとしての統一性が低下していること、富岡製糸場を核としたまちづくりと整備計画が調和・連携して遂行されている可能性があることが分かった。世界遺産の緩衝地帯において景観まちづくりが必要であると考えられる。富岡製糸場に最も近いゾーンでは、外壁の修繕・色彩に関する景観届出が増加傾向であった。

5. 産業遺産的価値と周辺地区の評価

富岡製糸場の産業遺産的価値について、観光客と地域住民の便益が年間の維持管理費用を十分上回ると思われるため、費用対効果の面から十分認められることを明らかにした。周辺地区を評価した結果、地域住民の観点から、各種の施設整備や景観対策などに改善の余地があることが分かった。観光客の来訪増加により、一時的に交通渋滞や違法駐車などの環境悪化も懸念されるが、施設整備や景観対策などを講じて、環境改善や定住効果が得られると考える。

6. 富岡製糸場と周辺地区の観光まちづくり

(1) 富岡製糸場：富岡製糸場の観光客数の閑散期がみられることが課題である。旅行者への誘客活動だけでなく、国内外からの高等学校の修学旅行などの教育旅行の誘致という誘客プロモーション活動に取り組むことが急務であると考えられる。

(2) 周辺地区：周遊地区の団体観光客の滞在時間が個人と比較して短時間であることが課題である。ガイドツアーの内容・エリアを周辺地区まで拡大する方法が考えられる。商工会議所や協議会などが行政と地域住民・観光客を円滑につなぐことができるよう、研究成果を情報提供する支援に今後も取り組み、地域活性化を目指していきたい。

(3) 群馬県：富岡製糸場から軽井沢や温泉地などの各地を移動するための交通手段として、公共交通機関の改善を見込めないことが課題である。自家用車や観光バスを活用した周遊ルートの作成・実現が必要である。